

## 新潟大学コア・ステーション

### 自然科学系附置 形の科学研究センター

#### 平成24（2012）年度研究業績

##### 著書

1. 木元克典, 「微化石の世界—プランクトン化石と過去の地球環境の多様性」 (共同執筆), 国立科学博物館叢書, 2012年刊行予定.
2. 岸本直子・松岡 篤・木元克典・吉野 隆・石田直人・栗原敏之, 5.5 宇宙プランクトン研究, 谷村好洋・辻 彰洋 編, 国立科学博物館叢書 13 「微化石 顕微鏡で見るプランクトン化石の世界, 東海大学出版会, 276-281, 2012.
3. 松岡 篤, 放散虫の殻. 岩田修一 総監修, 河口洋一郎 図版監修, かたち創造の百科事典 編集委員会 編, かたち創造の百科事典, 丸善出版, 418-419, 2012.
4. 松岡 篤・栗原敏之, ジオパーク —大学から地域へ、そして世界へ—. ブックレット新潟大学, 61, 新潟日報事業社, 1-72, 2013.

##### 学協会誌等

###### (1) 原著

1. 石田 桂・吉田和弘・松岡 篤, 新潟県佐渡島に分布する中部更新統沢根層上部の貝形虫化石群と日本海表層水の低塩分化. 地質学雑誌, 118, 8, 476-492, 2012.
2. Yoshino, T., Matsuoka, A., Kurihara, T., Ishida, N., Kishimoto, N., Kimoto, K., Matsuura, S., Application of Voronoi Tessellation of Spherical Surface to Geometrical Models of Skeleton Forms of Spherical Radiolaria. FORMA, 27, 45-53, 2012.
3. Yuasa, T., Horiguchi, T., Mayama, S., Matsuoka, A., Takahashi, O., Ultrastructural and molecular characterization of cyanobacterial symbionts in *Dictyocoryne profunda* (polycystine Radiolaria). Symbiosis, 57, 51-55, 2012.

4. 酒井佑輔・伊藤 剛・茨木洋介・吉野恒平・石田直人・梅津 暢・中田健太郎・松本明日香・日野原達哉・松本 健・松岡 篤, 新潟県糸魚川地域の境川右岸の手取層群水上谷層の岩相と層序. 糸魚川市博物館研究報告, 3, 1-11, 2012.
5. 伊藤 剛・酒井佑輔・茨木洋介・吉野恒平・石田直人・梅津 暢・中田健太郎・松本明日香・日野原達哉・松本 健・松岡 篤, 新潟県糸魚川地域手取層群水上谷層の礫岩中の珪質岩礫から産出した放散虫化石. 糸魚川市博物館研究報告, 3, 13-25, 2012.
6. Li, X., Li, Y., Wang, C., Matsuoka, A., 2013, Late Jurassic radiolarians from the Zhongba melange in the Yarlung-Tsangpo suture zone, southern Tibet. *Sci. Rep., Niigata Univ. (Geology)*, 28, 23-30.
7. Ito, T., Feng, Q., Matsuoka, A., 2013, Radiolarian faunal change in the Middle Permian Gufeng Formation in the Liuhuagang section, Chaohu, South China. *Sci. Rep., Niigata Univ. (Geology)*, 28, 39-49.
8. Li, G., Matsuoka, A., 2013, Revision of clam shrimp ( "conchostracan" ) genus *Tylestheria* from Late Cretaceous deposits of China. *Sci. Rep., Niigata Univ. (Geology)*, 28, 51-63.
9. 田村 翼・二上文彦・八巻安夫・荒 好・松岡 篤, 2013, 東日本大震災被災地支援 化石のレプリカ作り in 相馬地方. 相馬中村層群研究会誌 自然史研究, 3, 13-27.

## (2) 学会, 所内誌等

1. 安房田智司・阿部信一郎・鶴田哲也・井口恵一朗, 絶滅危惧種リュウキュウアユにおける摂餌生態, 摂餌場所環境の評価と奄美大島での保全手法の提案. 平成 22 年度河川整備基金助成事業報告書, 2011.
2. 井口恵一朗・安房田智司, 環境要因がアユの行動に与える影響の解析 漁業環境調査指針作成事業報告書「良好なアユ漁場を維持するための河川環境調査の指針」, 18-25, 2011.
3. 石田直人・松岡 篤, 「ジュラ系+」の集い. 日本地質学会 News, 14 (11), 8, 2011 年 11 月.
4. 川端清司・松岡 篤, 放散虫化石 バルパス物語. *Nature Study* (大阪市立自然史博物館), 57, 2-4, 2011.
5. Matsuoka, A., Mesozoic Working Group Activities 2010-2012. *Radiolaria Newsletter, The international association of radiolarian paleontologists*, 27, 23, 2012.
6. 松岡 篤, ときめいと企画展示・体験イベント・スタンプラリー「アンモナイト展」. 新潟大学旭町学術資料展示館ニューズレターあさひまち, 8 月第 9 号, 5, 2011.
7. 松岡 篤, 書評『日本列島の生い立ち—腕足類の化石からみた大昔の日本—』(田沢純一著, 新潟日報事業社). 新潟大学生生活協同組合教職員委員会編 ほんのこべや第 40 号, 32, 2011 年 4 月 1 日.

8. 松岡 篤, 書評『チェンジング・ブルー 気候変動の謎に迫る』(大河内直彦著, 岩波書店). 新潟大学生協同組合教職員委員会編 ほんのこべや, 第 41 号, 30, 2011 年 11 月 1 日.
9. 松岡 篤, 放散虫研究の最前線. 理科研究集録, 52, 54-57, 2013.

## 学会発表等

### (1) 国際学会

1. Kitagawa, Y., Matsuoka, A., Jurassic radiolarian fossils from siliceous mudstone in the Mino terrane, in Gifu Prefecture, central Japan. The 2nd International Congress On Natural Sciences, Kaohsiung, Taiwan, October 24, 2012.
2. Matsuoka, A., 2012, Feeding behavior and skeletal morphology of radiolarians: Toward understanding past marine ecosystems. The 2nd International Congress On Natural Sciences, Kaohsiung, Taiwan, October 23, 2012.
3. Sakai, Y., Sekido, S., Matsuoka, A., Early Cretaceous flora from the Tetori Group in the Oguchi area, Hakusan City, Ishikawa Prefecture, Japan. The 13th International Palynological Congress(XIII IPC) & The 9th International Organisation of Palaeobotany Conference(IX IOPC). , Tokyo, Japan, August 29, 2012, Japanese Journal of Palynology, 58(Special Issue), Abstracts: IPC/IOPC 2012, p.201-202.
4. Yoshino, K., Matsuoka, A., Provincialism of Campanian (Late Cretaceous) radiolarians in the North Pacific. 34th International Geological Congress 2012. , Brisbane, Australia, August 9, 2012.

### (2) 国内学会

1. 酒井佑輔・山口一男・関戸信次・松岡 篤, 2013, 石川県白山市の下部白亜系手取層群赤岩亜層群赤岩層より産出した *Zamites* 属を含む植物化石群集. 日本古生物学会第 162 回例会, 横浜国立大学, 2013 年 1 月 26 日, 予稿集, p 45.
2. 松岡 篤・吉野 隆・岸本直子・石田直人・栗原敏之・木元克典, 2013, 中生代放散虫 *Pantanellium* の外層殻を構成する殻孔枠数の多様性. 日本古生物学会第 162 回例会, 横浜国立大学, 2012 年 11 月 17 日, 予稿集, p 44.
3. 松岡 篤・吉野 隆・岸本直子・石田直人・栗原敏之・木元克典, 2012, バッキーボール式殻孔枠配列の外層殻をもつ中生代放散虫 *Pantanellium*. 形の科学会第 74 回シンポジウム, 東京農工大学, 2013 年 1 月 26 日, 形の科学会誌, 27, (2), p.123-124.

4. Kojima, S., Hayasaka, Y., Hiroi, Y., Matsuoka, A., Sano, H., Suzuki, N., Takemura, S., Tujimori, T., Uchino, T., 2012, Older accretionary units in Honshu and Shikoku islands, Japan. 日本地質学会第 119 年学術大会, 大阪府立大学, 2012 年 9 月 16 日, 講演要旨, p176.
5. 伊藤 剛・Feng, Q.・松岡 篤, 2012, 西南日本付加帯に含まれる上部古生界放散虫チャートの年代分布. 日本地質学会第 119 年学術大会, 大阪府立大学, 2012 年 9 月 16 日, 講演要旨, p200.
6. 内山雅貴・松岡 篤, 2012, 長野県塩尻南方地域に分布する美濃帯蕨原層および奈良井層の地質. 日本地質学会第 119 年学術大会, 大阪府立大学, 2012 年 9 月 16 日, 講演要旨, p199.
7. 松岡 篤, 2012, トピックセッション「ジュラ系+」10 年間の歩み. 日本地質学会第 119 年学術大会, 大阪府立大学, 2012 年 9 月 16 日, 講演要旨, p69.
8. 石田直人・岸本直子・松岡 篤・栗原敏之・木元克典・吉野 隆・松浦 執, 2012, マイクロ CT 技術のジュラ紀放散虫化石への応用例. 日本地質学会第 119 年学術大会, 大阪府立大学, 2012 年 9 月 16 日, 講演要旨, p67.
9. Li, G., Matsuoka, A., 2012, Cenozoic clam shrimp from China and their Cretaceous origin. 日本古生物学会 2012 年年会, 名古屋大学, 2012 年 6 月 30 日, 予稿集, p.45.
10. 松岡 篤, 2012, 多節 Nassellaria (放散虫) の捕食器官と殻形態からみた系統分類. 日本古生物学会 2012 年年会, 名古屋大学, 2012 年 6 月 30 日, 予稿集, p.44.
11. 二階堂崇・松岡 篤, 2012, 美濃帯南部坂祝セクションにおける後期トリアス系層状チャートと放散虫生層序. 日本古生物学会 2012 年年会, 名古屋大学, 2012 年 6 月 30 日, 予稿集, p.65.
12. 酒井佑輔・関戸信次・松岡 篤, 2012, 石川県白山市の下部白亜系手取層群より産出した *Taeniopteris* を含む植物化石群集. 日本古生物学会 2012 年年会, 2012 年 6 月 30 日, 名古屋大学, 予稿集, p.63.
13. Li, G., Matsuoka, A., 2012, Carapace surface ornamentation and its applications in fossil clam shrimp (Crustacean) taxonomy. 形の科学会第 73 回シンポジウム, 福井大学, 2012 年 6 月 15 日, 形の科学会誌, 27, (1), p.23-24.
14. 松岡 篤, 2012, 放散虫の多節骨格とその意味. 形の科学会第 73 回シンポジウム, 福井大学, 2012 年 6 月 15 日, 形の科学会誌, 27, (1), p.21-22.
15. Li, G., Matsuoka, A., 2012, First record of Late Jurassic radiolarians from eastern Heilongjiang Province, NE China. 日本地球惑星科学連合 2012 年大会, 幕張メッセ国際会議場, 2012 年 5 月 25 日, 予稿, MIS30-02.
16. 松岡 篤, 2012, 飼育実験とマイクロ CT 技術にもとづく放散虫の生態学的・形態学的研究. 日本地球惑星科学連合 2012 年大会, 幕張メッセ国際会議場, 2012 年 5 月 25 日, 予稿, MIS30-01.